

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.181

2014/12/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

2014 年は獣害対策に明け暮れた 1 年でした。「生物多様性の保全」を言うからには森全体の生態系の現況把握が欠かせません。猛威を振るいだした気象状態・地球温暖化から土壌生物までトータルに、しかも長いスパンでの保全計画と実践が求められています。そうした中で某行政担当から、日本ユネスコ協会が実施している「未来遺産」登録に応募しないかとの勧めがあり昨年と今年応募をしましたが両年とも不採用になりました。それに対して審査会の短いコメントが付いていました。

2013 年は、「緊急性の高いものから選定したのでおしくも採用されませんでした」

2014 年は、「過疎化や獣害などの影響を受ける対象を保全する活動が進められている点は評価できますが、**あまりにも人工的な保全方法が目立ち、保全方法に対してもう少し工夫**（訪問者に人工物が見えにくいようにする工夫をすることなど）が必要であると判断されました。」というものでした。

この運動の趣旨には

「民間ユネスコ運動は、ユネスコ憲章の精神に則り、戦争に反対し、豊かで魅力的な地域づくりに貢献することによって社会の安定と発展を願い、それがひいては世界平和につながることを目指して活動しています。しかし、グローバル化が世界規模で加速する中、より緊密な地球社会が実現する一方で、テロや世界的経済不況などの亀裂も入り、明るい未来への展望が失われつつあります。日本の地域社会も過疎化や少子高齢化の波に見舞われ、元気をなくしかけています。何よりも、長い歴史を超えて引き継がれてきた豊かな文化・自然遺産が急速に損なわれ、継承の危機に瀕しているものも数多くあります。『未来遺産運動』は、長い歴史を超えて人々が紡ぎ続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当て、それらを未来に伝えていこうという人々の意欲を活性化させることによって時代を切り拓いていくことを目的としています。」

どうやら日本の森の実態を知らない方々の審査であると感じています。これでは応募しても採択されることは無いと思われます。生物の多様性保全のためなり振り構わず獣害防止に日々悪銭苦闘してやっと再生にこぎ着けられているこの森です。これこそ「緊急性が高い」フィールドではないでしょうか。滋賀県で言えば伊吹山の植物群落・霊仙山・比良山系などの食害による植物群落の衰退を見れば、今日本の森で如何に獣害対策が必要か、「来訪者に人工物が見えない工夫」などと言っておられる状況ではありません。この森での状況も裏面の天然更新試験地の状況を観れば如何に『獣害対策』が必要かは自明のことです。

そんな中で 11 月 24 日長浜市在住の藤田さんに森でラジコンヘリのデモを行っていただきました。動画撮影されたものを静止画に変換したものを掲載していますが、森の現況把握には最適であることが分かります。ラジコン操作には技術的な課題がありますが、本会でもこれで常時現況把握が出来ればと考えています。



PHOTO BY FUJITA

獣害防止ネット無し

獣害防止ネット設置

14/11/24



破られた箇所の補修(14/11/27)

今秋は観察コースの木橋や階段の補修・チップ材の敷設・ヒノキ林の枝打ち(未完)も進み歩きやすい状態に来訪者から保全作業が行き届いているとの賛辞が続きました。こうした来訪者が本会へ入会して貰ったのも保全が行き届いていることの反映だと思っています。

設置した防獣ネットの巡視を、朝一森林キーパーを中心に毎日実施しています。かなりの頻度でネットは破られており補修に時間を取られることもしばしばです。来年度以降森林キーパーが居てくれないことになると防獣ネットの維持管理も大変な事態になります。何せ 10 力所も防獣ネットを設置しているのですから。



整備された四季の森で紅葉を愛でる来訪者(14/11/23)

2004年に設置された付属湿地の観察橋が腐植し危険な状態になってきたため全面補修を行いました。



観察橋の全面補修(14/11/27)

降雪前に防獣ネットを外す作業を行い、積雪が本格的になってきたのを見計らって防獣用波板の撤去(斜面下部のもののみ)を行いました。これらの作業は、積雪とのタイミングを見計らうことが難しいことです。



防獣波板撤去(14/12/13)